

## ゴミ屋敷と脳

小嶋祥三

最近、テレビでゴミ屋敷の話題を見かける。片づけられない、というよりは、なんでもかんでも集めてしまうのだろう。Damasio ら (Anderson, S.W., Damasio, H. & Damasio, A.R., A neural basis for collecting behavior in humans. *Brain*, 128:201-212, 2005) が脳の損傷と病的な収集行動の関係を検討している。Damasio らは平均年齢約 60 歳の 9 名のコレクターを以下の基準で同定した。1) 収集行動の程度が度を越している、2) 価値のないものを収集する、3) 収集行動が日常の生活に影響を与えている、4) 脳の損傷後に収集行動が始まっている、5) 他の人が収集行動を抑制しようとしても抵抗する。上記 9 名はこれらの基準すべてに合致した。なお、コレクターは平均的な知能指数を有していた。

これら 9 名の脳を MRI で計測し、損傷の重なりを調べたところ、両側の前頭前野の内側部、下（底）部で、前方の前頭極へ広がっていた。なお、右半球で重なりが多い傾向があった。げっ歯類で類似の行動に係る皮質下の腹側被蓋野、外側視床下部、視床には損傷は見られなかった。なお、一部のコレクターで側坐核に損傷があった。Damasio らは前頭前野の内側部は皮質下の収集行動関連領域を制御するが、損傷で制御が損なわれたと考えている。

日本のゴミ屋敷の住人の脳がどうなっているかは調べないと分らない。何らかの原因により前頭前野の内側部に構造的、機能的な変化があるのかもしれない。ただ、それが分かっても収集行動がおさまるわけではない。コレクターに対する様々な社会的、医療的なサポートが必要だろう。サポートにより収集行動の減少がみられ、それに対応して脳に変化があるならば、それは好ましい結果だ。ここで強調したいのは、脳が分かっても収集行動は改善されないということである。